

第3回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 平成26年2月17日(月) 18:00～20:06

場所 であえーる岩見沢3階 会議室1

1 開会

2 議事

報告

(1) ニーズ調査の単純集計結果について

(2) 専門部会会議内容について

協議

(3) アンケート調査について

(4) 分野別協議 子どもの支援について

3 その他

4 閉会

- 出席者 <委員> 岩見沢市子ども・子育て会議委員10名
<事務局> 子育て支援推進担当次長、子ども課長、子育て支援係主任、子育て支援係

- 配布資料
- 資料1-1 : ニーズ調査就学前児童単純集計表〔抜粋版〕
 - 資料1-2 : ニーズ調査就学前児童単純集計表
 - 資料2-1 : ニーズ調査小学生児童単純集計表〔抜粋版〕
 - 資料2-2 : ニーズ調査小学生児童単純集計表
 - 資料3 : 専門部会結果報告
 - 資料4 : アンケート調査概要
 - 資料5 : 広報折り込み調査(案)
 - 資料6 : 事業者アンケート(案)
 - 資料7 : 分野別協議資料
 - 資料8 : 放課後子どもプランの推進について
 - 資料9 : 放課後子どもプランの案内

事務局	1 開会 (18:00)
事務局	2 議事 (1) ニーズ調査の単純集計結果について 資料1～2に基づいて説明

委員F	ただいまの説明についてご質問がありましたらお願いします。
委員G	回収率が、特に就学前児童が40%というのは、市全体を評価できるのか。
事務局	回収率については40.65%と、期待したよりも少し低く出てしまったのですが、691件というのは統計分析上問題ない数と考えてよいと思っています。
委員F	ある程度の大きな流れは把握できるくらいの数だろうということですね。
事務局	そうです。
委員F	抜粋版のコメントでありましたけれども、小学生と比較するということが質問項目が結構違うのがありますよね。例えばどんな手段で情報を集めるかとか、説明では人を介してということでしたが、こっちには人を介してという設問項目が無かったですよね。就学前の11-1かな。人というのは出てこないで、これを持って人を介していないかどうかというのはわからないですよ。
事務局	そうですね、就学前児童の方には人を介しているかどうかという設問がありませんので、こちらが本当に人を介しているかどうかというのは不明な所があります。
委員F	そうですね。
委員G	就学前児童の回収率の中で、配偶者がいない人の回答者が49人で7.1%しかいない。一番困難な中にいる人ではなかろうかと思うんですよ。それがきちんと出てこないというのは・・・。
委員F	もうちょっと割合が多いはずだということですよ。
委員G	はい。
委員F	実際のところ、それは市の統計で把握することはできないのですか。国勢調査とか。
事務局	直近の割合と比較して、大きく差があるようであれば若干の補正は必要かと思っています。
委員F	そのデータは出ますよね。ひとり親家庭の数というのは。

事務局	はい。
委員F	確かに、僕も子育て家庭の調査をいくつかしているんですけど、子育て不安が高い人ほどこの手のことに答えないという傾向が見られます。
事務局	その辺は直近の国勢調査の状況と比較するなどして検討したいと思います。
委員F	他にご意見は。
委員K	私は小学生の方を、じっくり見させてもらいました。第1回目に配られた資料の中で、平成15年、平成21年に行ったデータも出ていて、大きな傾向としては同じような結果になっている。回収率は低いかもしれないけど、おおよその傾向は出ている。予想の範囲内の結果だと思う。
委員F	ありがとうございます。虐待の可能性についても5人に1人ぐらいは心配だと感じているというデータは大事だと思う。
事務局	予想より少し高めに出た印象です。
委員F	そうですね。
委員K	その中で、どこにも相談しないという項目が就学前にはありますが、小学生の方には選択肢がない。小学生の方は子どもをいじめや虐待から守ってほしいという項目が高くなっている。
委員F	項目は揃えるところは揃えればよかったですね。
事務局	小学生は前回・前々回との比較を主に置いており、もう少し整理すれば良かったという反省があります。
委員F	経年比較ということですか。
事務局	そうですね。今回の小学生調査というのは国の子ども・子育て事業計画のための調査ではなく、市独自として経年の変化を見るための調査だったため、整理がしきれなかった部分はありました。この後5年ごとに調査をしていくことになるので、就学前と小学生で比較できるようにすることを今後の反省とします。
委員F	もう少し詳しい分析結果はこの後出てくるのですか。

事務局	はい。
委員F	よろしいでしょうか。それでは報告の2番目にいきたいと思います。専門部会会議内容についてです。事務局から説明をお願いします。
事務局	(2) 専門部会会議内容について
委員F	ありがとうございます。ご質問はありますか。市として遊び場をつくるので、安全管理の問題が出てくるが、何とか人でカバーしようという検討がされているということですね。ご意見無いでしょうか。 それでは協議の(3) アンケート調査についてに移ります。事務局から説明をお願いします。
事務局	協議 (1) アンケート調査について 資料3～5に基づいて説明
委員F	ありがとうございます。2つのアンケート調査についてです。ただいまの説明についてご質問ありますでしょうか。
委員F	広報岩見沢3月号はいつ配布されるのですか。
事務局	3月1日です。
委員F	締め切りは14日ですか。
事務局	だいたい2週間ぐらいなんですけども、郵便としては4月30日までは対象としていますので、どこで区切るかは回収状況を見てということにしたいと思います。期間を長くしてもなかなか返ってこないの、回収状況をみて決めたいと思います。
委員F	どのぐらいの回収率を見込んでいますか。
事務局	この手の調査の回収率は、さほど高くないと思います。
委員F	封筒の切って貼ってをやると回収率が下がるのでは。厳しいかなと思います。
事務局	そうですね。

委員 J	FAX でも構わないのですか。
事務局	FAX もしくは持参でも構わないということを追記したいと思います。
委員 J	たくさんご意見を言いたい人もいると思うので、メールも利用できるといいのではないのでしょうか。
委員 F	いつでもご意見をお待ちしておりますということは入れておくといいかもしれないですね。
事務局	メールについては検討しますが、ご意見をお待ちしておりますという一文は追記します。
委員 F	子育て経験があるかないかを聞く意図は何ですか
事務局	経験がない人は希望として分析できると考えています。
委員 F	岩見沢市は人口の流出が止まらなると聞いています。そこらへんの現状について説明をしておいた方がいいのではないのでしょうか。
事務局	広報の中で子ども・子育て会議についても触れているのですが、ニーズ調査結果についても一部載せます。ただ、人口流出については触れていなかったのも、まだ間に合うので人口流出があるということについて触れたいと思います。
委員 J	赤ちゃんの出産が微妙に増えています。
委員 F	そうなんですか。それはどこで取っている数字なんですか。
委員 E	保健センターです。妊娠届出数が増えています。
委員 J	3年前の 550 から、今年度 600 へと微妙に増えています。
委員 F	そうするとどういふ世帯が流出するんですかね。
委員 J	どんな家庭かはわかりません。
委員 L	出ていくのは老人世帯が多いのでは。

事務局	内容については、後程打ち合わせをさせていただいて考えてみたいと思います。
委員 F	あと、事業者へのニーズ調査ですが、何かありますか。
委員 F	事業者へのニーズ調査の項目は、電話で聞いても把握できてしまう内容ではないかと感じたのですが。
事務局	そうですね。ただ、50 件以上になりますので。
委員 F	スタッフ構成の質問は聞かなければわからないのでしょうか。スペースがもったいないなと思ひまして。
事務局	ある程度、予測がつくところではあります。前回の事業所調査にあった項目なのでつけたのですが、絶対必要というわけではないです。これは郵送での調査ですので、枚数が増えるのは構いませんので、増やしたい項目があれば、増やすことは可能です。
委員 F	こういった調査は毎年やっているのですか。
事務局	初めてです。第 1 回、2 回の協議でやったほうがいいんじゃないかというご意見があったため計画したものです。
委員 F	どのような対応をしたか、もしくは対応をする予定なのか、虐待に対する研修はしているのかといった質問をしてみてもどうでしょう。
委員 J	そこまでいくとマニアックすぎませんか。病院では一人で対応しています。チームをつくってやろうとすると難しい。就学児の抜粋版の間 12 くらいの質問ならいいですが。
事務局	市がどう対応できるかを分析するために行うので、あまり複雑なことを聞いても生かしきれないおそれがあるので、単純な設問にとどめました。
委員 J	どうしますか？と聞くのは答える方はすごい大変ですよ。
事務局	問 5 でどのような取組が必要か聞いていますが。
委員 J	問 5 は今市にないサービスなので、未来の話、夢ですよ。

事務局	必要な取組がひろえれば、次の展開も考えられますので、この設問を入れました。
委員K	ないサービスについては、優先順位をつけて検討していく必要があり、優先順位をつけるためにアンケートで聞くのは意味があることだと思います。
委員F	何のためのアンケートなのかというと実際に必要なことを政策に反映させること。
事務局	問5、問6において集めたご意見を今後の市の取り組みに生かしていきたいと思えます。
委員B	問1の6は「所」をつけてください。
事務局	はい、修正します。
委員B	問4は、対象になる事業所は要保護児童対策地域協議会のメンバーが全部対象になるのでしょうか。
事務局	全部ではありません。要保護児童対策地域協議会のメンバーは、普段から対応されている方なので、普段虐待に触れていない方に意見を募りたいと思えます。
委員B	問3は、過去1年間の回数を聞いているのですか。
事務局	そうです。
委員A	虐待リスクの高い家庭に関するアンケートで、問4に色々選択肢がありますが、連絡がつきにくい家庭というのはどうなのでしょう。通知が届いているのかどうか分からない家庭もあります。
事務局	付け加えたいと思えます。
委員F	事務局では、今日の意見を踏まえてアンケートに反映していただくということによろしいですね。次は、分野別協議に入ります。事務局から説明をお願いします。
事務局	(2) 分野別協議 子どもの支援について 「放課後児童対策」について

	資料6～8に基づいて説明
委員F	ご意見や質問等ありますでしょうか。
委員G	幼稚園に障がいをもっている子がいますが、預かり保育で夏休み、冬休みも含めて月～土までお母さんは働いていた。小学生に上がると受け入れる先がないのが現実です。スキップという学童保育でも障害児を受け入れるようにしていますが、これ以上は受け入れることができません。来年度の説明会で数名申込がありました。お断りせざるを得ない状況です。今、差し迫っているのに、母子世帯で預かる場所がなければ仕事を辞めなければならない。そうなると生活がどうなるのか。児童館がもっと間口を広げてほしい。前回の計画でも提案しましたが、教育委員会としてどのように対応してきたのか。幼稚園・保育所で健常児と一緒に過ごしてきたのに、小学校で個々に受け入れるというのも考えなければならないと思います。岩見沢市では、特別支援学級はどの学校にもあり、児童館も学区ごとにあります。そういうことを考えると、一人でも二人でも受け入れるということをしていくべきではないかと考えています。
事務局	前回の提案からどう対応してきたのかということですが、おそらく前回ご提案いただいたときは、受け入れ数は少なかったかと思います。児童館の方向としては、ずっと以前は障害児は受け入れていませんでしたが、ご意見や受け入れを希望するご家庭が増えているということ踏まえ、利用人数の多い館だと走り回ったりして危険な場合もあり、また、色々な障害があるので一概には受け入れられるとは言えませんが、保護者の方と館長とよく話し合っ、児童にとって危険がないかなどを考慮して児童館でも受け入れるようにしてきました。今、受け入れの希望があるということですので、一度、児童館に相談されてみてはどうかと思います。ただ、児童館にそれぞれの状況がありますので、絶対大丈夫とは言えないのですが。
委員G	いつもこの時期になると同じ問題がありますが、紹介しても断られるようであれば、保護者に言うことができない。
事務局	冷たく簡単に断るというのではなく、実際に試しに利用してみて、保護者の方と相談して大丈夫ということであれば受け入れています。絶対という約束はできませんが、相談してみるのも一つの方法だと思います。
委員K	1か月先のことも大変ですが、この会議は5年後またはそれ以降を見据えた会議。障害児の受け入れは前回よりも進んでいるという結果が24年度は出てきています。この結果を岩見沢市としてはどのようにくんでいくのかということと、

	<p>受け入れるにしても、猶予のない切羽詰まった時期に来られて、話し合ったり、整える時間がないと困ります。予算編成の前にそういう話があれば、人員配置のことや予算のことなど話し合うことができますが、あと一か月しかないといった状況の中では対応のしようがないのが現状としてあります。</p>
委員A	<p>市の放課後児童クラブの受入れに関して、障害児を受け入れられないという一文があったのでしょうか。</p>
事務局	<p>規定はしていませんでした。受け入れていなかった時代は児童館のスタッフは今より人が少なく、一般児童の対応だけで精いっぱいだったという状況があったと思います。</p>
委員A	<p>今はどこがどういう公募の仕方をしているのですか。障害児に関する説明はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>受入に関する基本的な事項は書いてありますが、障害のある児童に関する一文は載せていません。</p>
委員A	<p>ということであれば、学童保育の申し込みは障害のあるなしにかかわらず申し込みはできるはず。ケースバイケースで物事が進んでいるために疑問を呈していると思います。募集の資料については5年前と変わっていないのですよね。受け入れの仕方が変わっていないのに障害児の受け入れ人数が増えているのが疑問です。なんかダメみたいという思いがお母さん方の間で説得力のある話として伝わってしまっている。市としては、募集のかけ方について検討が必要ですし、申し込んできたときに、現場の整備や人員配置も必要なので、順番を整理しないといけないと思います。</p>
事務局	<p>今後、どうしていくかということ子ども・子育て支援事業計画の中に整理していくことになると思います。放課後児童クラブだけでなく、障害福祉サービスも組み合わせ、対象のお子さんにとって、また保護者の方にとってどういった形が一番望ましいのかという観点で考えていきたいと思いますので、新しい計画の中で検討する方向を整理できればと思います。</p>
委員L	<p>やはりスタッフが必要です。障害児を受け入れるのであればそれに見合ったスタッフを入れないと。ニーズのことや時間的な問題などを検討していかないといけないと思います。</p>
委員F	<p>これについては専門部会で議題になるのでしょうか。</p>

事務局	会議の最後にスケジュールの確認をしたいと考えているところですが、放課後児童対策については来年度専門部会を設置して詳しく協議していきたいと考えています。
委員 F	それでは次のテーマについて説明してください。
事務局	「早期発見・早期療育」について
委員 J	早期発見・早期療育がいいと思っていません。1歳半健診や3歳健診前に診断しても、9割のお母さんは拒否します。岩見沢市には5歳健診がないので、診断を促せるのは、その間対応する心理士しかいません。この資料には書かれていませんが、発見から相談までの期間は長いです。例えば、1歳半位で見つかって、小学校に上がる5歳くらいまでずっと診療を繰り返せば、ということが書かれていません。1歳か2歳で見つかって早く手を打てば治るのかといえば、本当にそうでしょうか。脳性麻痺は早期療育で治ると言われていましたが、実際には治らないんです。早期療育がいいわけではないんです。発達障害も環境を整えましょう、ということは言っていますが、早期療育で治ると言うことは言っていない。早期発見・早期療育という書き方は違うと思います。大事なのは保護者の相談に乗ってくれる人、医者をサポートする保健師や心理士なんです。長い相談を相手してくれる人という一文を入れてほしい。つみき園や幼児ことばの教室に行けば治るといった誤解を与えるような表現はやめてほしい。
事務局	就学前という意味で使用したのですが、早期という言葉が誤解を生じる可能性があるれば、他の書き方を検討します。
委員 J	早期という言葉はあまりよくないと思います。就学前相談という言葉を使ってほしい。
委員 F	資料の書き方はすごく医学的なモデルになっていて、病気があって早く見つけたら、早くよくなりますよと、医者にかかりましょうとなっているけれど、発達の場合はそうではなく、誰が付き添ってくれるか、市がそういう子たちの成長をどうバックアップしてくれるかというモデルなので。
委員 J	臨床心理士が小さいころから各種相談に乗りますという文章を前面に押し出していただく方が相談しやすいのではないのでしょうか。
事務局	こちらは今日の協議のための資料であって、事業計画の資料ではないので、臨床心理士の存在や相談窓口がたくさんあるということが伝わるような書き方を

	事業計画ではしていききたいと思います。
委員A	母子の遊びや関係において保健センターではどういう取り組みをしているのでしょうか。例えば、赤ちゃんの扱いが上手くできないとか、子どもがぐずっていうことをきいてくれないといった場合に。
委員E	赤ちゃんについては個別フォローをしていて、療育機関ではないので、療育学的なプログラムはやっていません。乳幼児健診の事後指導教室といった形で、親子が遊びを通して関わられるような教室は行っています。
委員A	虐待のリスクが高いような場合や、子育ての仕方がわからないとか、子どもが障がいをもっている場合など、遊びなどを通して親子関係の修復を促す取り組みはやっていないのでしょうか。
事務局	子育て支援センターで、「ばぶばぶ」と「とことこ」という取り組みをやっています。お母さんがお子さんと一緒にいらっしゃって、その時に小児科医の健康相談も同時に行っています。対象は「ばぶばぶ」は、妊娠時から生後8ヶ月の赤ちゃんで、「とことこ」は生後9ヶ月から1歳2ヶ月の赤ちゃんです。
委員A	それは、子育て中のお母さんに周知しているのですか。
事務局	毎月の広報に載せています。子育て支援センターのひなたっ子を会場に実施しています。結構利用者は多いです。
委員G	本来は、発達支援センターと幼稚園・保育所というのは密接に結びついて情報交換をしながら子どもをみていくべきです。幼稚園と保育所は集団の中で保育し、つきき園は個別指導していて、それが一体となって初めて子どもが成長していくと思います。しかし、幼稚園とつきき園との連絡はほとんどない。私たちとしては、子ども達の普段の様子を発達支援センターの人に見ていただいて、指導に活かしてもらいたい。他の市町だと密接にかかわっている。
事務局	発達支援センターの職員が幼稚園・保育所を回るというのは実際にやっています。周知が不足しているのかもしれませんが。もう少し周知する工夫していくのも一つかもしれません。
委員G	定期的に巡回しているのですか。
事務局	希望があれば回ります。希望のない所に定期的に行くということはしていません。

	<p>ん。ちょっと困っているという相談があった場合に、幼稚園・保育所に出向いて、アドバイスをしていますので、そういったことはもっとPRしていきたいと思います。</p> <p>つみき園に通っている子については、つみき園は市の施設ではなく事業所なので、対応の可能な人員配置ができるかわかりませんが、そういった希望があるということを計画の中で考えていきたいと思います。</p>
委員 F	<p>施設間のネットワークの話ですね。</p> <p>それでは3つ目の遊びを通じた知力・体力の向上について説明してください。</p>
事務局	<p>「遊びを通じた知力・体力の向上」について</p>
委員 J	<p>専門部会のことですが、遊び場の土日運営については、市職員がいないため、第三者機関などへの委託がいいのではないかという話があったのですが、人の確保が一番大切なので、そこをなんとか探すかつかくるかしてほしい。</p>
事務局	<p>人については委託がいいのか直接雇用がいいのかまだ結論が出ていないので詳しく書いていませんが、人の確保というのは非常に大きな問題だと認識していますので、検討していきたいと考えています。</p>
委員 F	<p>遊びを通じた知力・体力の向上ということではどちらに重点を置くのでしょうか。今の話だと、知力・体力の向上のために遊びを使うというふうには聞こえますが、知力・体力の向上以前に、子ども達の遊ぶ機会が脅かされているという認識をしっかりとつ必要があると思います。子どもの権利条約第31条は子どもの遊ぶ権利。つまり、子ども達は、ほおっておけばのびのび遊ぶはずなんです。それを難しくしている要因がこの世の中にはたくさんあって、例えば、プログラム化された学校教育のあり方や、遊びについても、先ほどの遊びを通じた学習、つまり、遊びを遊びのままにしないで学習の場にするとか、知力・体力の向上というあり方自体が、子どもが遊ぶ状況を阻害してしまう。そういう意味で、岩見沢市としてどういう姿勢を打ち出すのか整理した方がいいと思います。</p>
委員 J	<p>冬期間、遊ぶ場所がないというのが一番問題なので、遊ぶ場所を作りました、と言えるといい。</p>
委員 G	<p>何度も言っていますが、旭川市の遊び場はすごい。小手先ではダメ。</p>
委員 J	<p>遊びを通じた知力とかと書くよりは、大切なのは遊びと言い切った方がいいんじゃないでしょうか。</p>

委員 I	先ほどもおっしゃっていましたが、人的資源の発掘というのは一番大切だと思います。
委員 J	岩見沢でボランティアを発掘するのは、難しいようで実は結構いると思います。
委員 F	意外といらっしゃるんですね。
委員 D	つい先日、友人が緊急入院することになり、ショートステイが岩見沢市にはないので、自分が子どもを預かることになりましたが、こういう会議に出ている、そういうときになったら誰に相談したらいいだろうとあたふたしてしまいました。緊急時に電話でちょっとしたことを聞けるようなものがあるといいと思います。
委員 J	道がやっている「#8000」は、番号は簡単で覚えやすいですが、すごくお金がかかっています。
委員 D	<p>そういう番号があったらいいと思います。また、お母さん達の口コミはすごく、見るよりも、ちょっとした立ち話で情報を得ることが多いので、小児科やスーパーにポスターなど、お母さんが目にしやすい場所に色んな情報を貼るなどして、お母さん達の口コミを利用するといいと思います。</p> <p>病気や事故などとっさのときは、あたふたしてしまって、もう少し調べればよかったです。事前登録だとか土日の利用はできないと思い込んでしまって。きっと、あたふたしてしまう人はたくさんいるんじゃないかと思います。</p>
委員 J	緊急サポートは必要ですね。
委員 D	私も経験があるのですが、子どもが壁にどンドン頭をぶつけていたりすると、子どもって結構そういうことをするのですが、「うちの子変？」とか、あまりしゃべられないと、不安になってしまいます。ネットで調べたりすると、それ相当に当てはまったりして、だんだん落ち込んでしまうので、なんでも気軽に相談できる施設のようなものがあるといいと思います。行政は敷居が高く行きづらいというのもあるので。
委員 F	相談施設の敷居の高さは難しいですね。すっかり下げてしまえばいいということでもないです。色々な高さが必要ですね。ワンストップサービスのようなのがあればいいでしょうか。

事務局	参考にさせていただきます。
委員F	よろしいでしょうか。ここまでにしたいと思います。その他について事務局から何かありますか。
事務局	会議が始まる前に、平成 26 年度の子ども・子育て会議の日程を、お配りしました。4 月から 1 月まで 6 回の会議日程を載せました。放課後児童対策の専門部会も設置いたします。今年度の会議はこれで最後となりますが、来年度は 4 月 21 日を予定していますので、よろしく願いいたします。
閉会	20 時 06 分